

断端検索と断端陽性の基準

乳房部分切除術において最も問題となるのは、癌の遺残です。術前の画像診断により、癌の広がり进行评估したうえで、切除範囲を決定し手術を行いますが、実際の手術中に癌が切除断端に露出しているか否か肉眼的に判定することは困難です。そのため、施設によっては、術中に切除断端を迅速病理診断で評価を行なっているところもあります。しかしながら、ホルマリン固定パラフィン切片ではなく、凍結切片での観察となるため、時に診断が困難な場合があり、特に乳管内病変における良悪性の鑑別が問題となります。したがって、術中の断端検索には限界があり、永久標本における断端検索がもっとも重要となります。

乳房部分切除で摘出された検体は、5mm 間隔で全割切片を作成し、病理検索を行ないます。欧米では乳房部分切除後の残存乳房に放射線照射を加えることが標準であり、断端検索についても、癌が露出している場合や断端から 2mm 以内に癌が存在する場合を断端陽性としています。わが国では、施設によっては断端陰性である場合に放射線照射を省略する場合があるため、欧米よりも基準が厳しく、ガイドライン上は断端から 5mm 以内に癌がある場合を断端陽性としています。